

第5学年

社会科

小単元名

米づくりのさかんな地域

【学習計画】

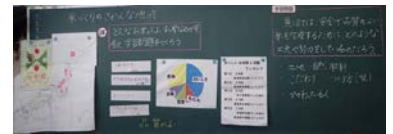
つかむ	①	自分の家で食べている米の米袋を調べ、そこに記されている情報を読み取る。 ・ 米の産地が東北や北海道に多く分布していること ・ 米の産地には自然条件や気候条件で共通していることが多いこと
	②	保護者アンケートや米袋の情報をもとに、学習問題を考え、学習計画をたてる。 ・ 米穀検査や食味ランキングにより品質や味の情報が発信されていること ・ 米を買うときに消費者によって様々な価値観があること 学習問題 南魚沼では安全で品質の良い米を生産するために、どのような工夫や努力をしているのだろう。
調べる	③	米づくりの1年間の仕事の様子について調べる。 ・ 3月から10月まで、稲の育ち具合に合わせた作業をし、色々な機械を使って、効率的に仕事をしていること
	④	南魚沼市の自然条件や土地の利用の特色について調べる。 ・ 南魚沼市の土地の様子や自然環境が米づくりに影響を与えていること ・ 多くの河川が雪解け水や土壌を運び、米づくりに影響を与えていること ・ 冬の厳しい寒さが土壌の抗菌作用に役立っていること
	⑤	米の生産や安全性を高めるための工夫や努力について調べ、まとめる。 ・ 農業協同組合（JA）が、農家の人たちを支えているということ ・ 農業総合研究所で、米の品種改良や有機栽培の研究を行っていること ・ 化学肥料に頼らず有機肥料を用いて安全な米づくりをしていること
まとめる	⑥	これまでの学習を振り返り、調べたことを基に、学習問題について話し合い、結論を導き出す。 学習問題Ⅰのまとめ 南魚沼市のように米づくりがさかんな地域では、農家の人々が、地域の自然を生かしながら、水の管理や農業機械・耕地整理・品種改良といった様々な工夫、米をつくり、食べてもらうための努力を行うことで、おいしい米をさかんにつくることができている。
	⑦	消費者がどのようにして米を購入しているのか調べ、学習問題Ⅱをつくる。 ・ スーパーやインターネットで購入することができること ・ 1年を通して米を安定して購入することができること 学習問題Ⅱ 南魚沼では米を安定的に消費者に届けるためにどのような工夫をしているのだろう。
つかむ		

調べる	⑧	南魚沼市の米が消費者にとどけられるまでの様子を調べて、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きや、米づくりにかかる費用や価格について話し合う。 ・ カントリーエレベーターを使い、貯蔵と袋詰めを行っていること ・ トラックや列車、フェリーなどを使って、日本全国に米が届けられていること
	⑨	稲作農家の米づくりが抱える問題点をとらえ、これからの日本の米づくりについて考える。 ・ 生産調整をして、消費量に合わせて生産量を減らしていること ・ 農家をやめる人が増え、農家の数が減ってきていること
まとめる	⑩	これまでの学習を振り返り、調べたことを基に、学習問題について話し合い、結論を導き出す。 ・ 陸路を中心に輸送していることや、小売店だけでなく直接買う方法が増えてきていること ・ 生産調整を行い、需要と供給のバランスをとっていること 学習問題Ⅱのまとめ 南魚沼では安定的に米を消費者に届けるために、トラックや列車などで小売店まで輸送している。また、インターネットを用いて、農家から直接買うこともできる。消費者が安全な米を1年を通して安定して購入できるように生産や出荷を調整しているが、稲作農家の減少などの問題もある。

【研究協議】

＜対話を交えた学習問題づくり＞

- ・ 消費者が考える「良い米」の基準は多様であることに気付かせるために、自分の考える「良い米」について討論を行った。
- ・ どういう米が「良い米」なのかという点については、価値観を認め合うことにつながるが、社会の授業では価値観を扱うのはどうだろうか。
- ・ 討論型の話し合いを目指したが、それぞれの考えを発表し合うだけの話し合いにとどまってしまった。



【指導講評】 久喜市立太田小学校 校長 穂村 憲久 先生

- 子供たちの問題意識が高まっていたので、学習問題を導きだすところからうまく行っていたのではないか。
- 「良い米」を考えることに時間をとりすぎていた。何が「良い」というのは根拠がないので、時間をなるべく減らして、他の活動に時間を回したほうがよい。

成果

多様な資料を活用した導入により、児童の解決意欲が高まり、調べ学習を充実させることができた。

課題

「良い米」という抽象的なものを具体的なものにするために、根拠となる資料の準備や提示の仕方を工夫する必要がある。